

なげきつつひとり寝る夜① 助動詞・敬語

【蜻蛉日記】

藤原道綱母

九月ばかりになりて、出で出ていったに出でたるほど  
完了・連用 完了・連体

に、箱のあるを手まさぐりに開けて

見れば、人のもとにやらむやまろう(送ろう)とし  
意志・終止

ける文あり。あさましさに、見見てしまったてけり  
完了・連用 過去・終止

とだに知られだけでも(兼家に)知られようむと思ひて、  
受身・未然 意志・終止

書きつく。

渡している  
うたがはしほかに渡せる存続・連体ふみ見ればここ

やとだえにならむなろうとするでしょうとすらむか  
推量・終止 推量・連体

など思ふほどに、むべなう、十月つごもりがたに、三夜

しきりて見えぬ見えない時あり。つれなうて、「しばし  
打消・連体

こころみるほどに。」など、気色あり。

これより、タさりつかた、「内の方ふたがりけり」  
宮中の方からは塞がっているのだ  
詠嘆・終了

とて出づるに、心得で、人をつけて

なげきつつひとり寝る夜②

助動詞・敬語

【蜻蛉日記】

藤原道綱母

町尻小路にある

お止まりになった

見すれば、「町の小路なるそこそこになむ、とまり

存在・連体

来た

給ひぬる。」とて来たり。さればよと、

尊敬 完了・連体 完了・終止

言う(ような)すべ

いみじう心憂しと思へども、いはむやう

婉曲・連体

も知らであるほどに、二、三日ばかりあり

そのようだ(兼家が来たようだ)

て、暁がたに門をたたく時あり。さな

断定・連体(なる)

めりと思ふに、憂くて、開けさせ

推定・終止

行ってしまった

ねば、例の家とおぼしきところにもものし

このまま済ましてはおくまい

たり。つとめて、なほもあらじと思ひて、

完了・終止

打消推量・終止

なげきつつひとり寝る夜をあくる間は

いかに久しきものとかは知る

色のあせた

と、例よりはひきつくろひて書いて、移ろひ

挿した

たる菊にさしたり。返り事、「あくるまでも

完了・連体 完了・連体

(待つ)ことを(試み)ようした

ころろみむとしつれど、とみなる召使の

意志・終止 完了・終止

なげきつつひとり寝る夜③ 助動詞・敬語

【蜻蛉日記】

藤原道綱母

来合わせた

来あひたり つればなむ。いと理なり

全くもつともなごどだ

完了・連用 完了・已然

つるは。

完了・連体

夜でない

げにやげに冬の夜ならぬ真木の戸

断定・未然 打消・連体

つらいものだなあ

もおそくあくるはわびしかりけり

詠嘆・終止

不思議である

平気な様子をしている

さても、いとあやしかりつるほどに事なしびたり。しばし

完了・連体

存続・終止

こっそり隠している様子

は忍びたるさまに、「内に。」など言ひ

存続・連体

当然である

つつぞあるべきを、いとどしう心づきなく

当然・連体

思ふことぞ限りなきや。